

KOMAZAWA **駒澤大学0-1** KOKUSHIKAN **国士舘大学**

国士大の素早い攻撃の前に3試合連続無失点の記録も崩れた。
写真中央は鈴木祐
(撮影・野澤俊介)



今季2度目の敗戦喫し 首位滑落…

攻撃ちぐはぐ…

今季初の無得点試合

第2節以降、圧倒的な攻撃力と激しいプレスからの安定した守備で4連勝と波に乗っていたはずの駒大だったが、今節ではその駒大サッカーの代名詞が鳴りを潜める展開となってしまった。

開始早々は守備、攻撃面ともに上場の立ち上がりかと思われた。しかし「一人一人がかみ合ってなかった」と新川が語ったように、時間が経過するにつれ、徐々に前線からのプレスにほころびが生じ始める。中盤での出足が遅く、国士大の素早いパス回しについていけない。国士大オフENSEのキーマンである清水に度々翻弄される駒大ディフェンス陣。なんとかチャンスを作ろうと、この試合FWで起用された小野里が前線で奔走するも、連携不足のためか相手を脅かすには至らず。攻められながらも失点を防いだ駒大だったが、攻撃面に目を向けると連携やフィニッシュの場面でやや制裁を欠き、効果的に攻められない印象が残る前半だった。

後半に入ってから、駒大は自分たちのリズムを作れずに序盤からペースを握られてしまう。嫌な流れが続いていた52分、秋田監督が動く。開幕前からの怪我から復帰した関を投入し、先取点を奪いに出る。関はおよそ3ヶ月ぶりの実戦だったが、前線から積極的にプレッシャーをかけ相手ディフェンスに動揺をあたえるエネルギーが豊富なプレーを見せた。その5分後、赤嶺の相手の隙をついたポジショニングからチャンスを作り、塚本とのワンツースでフィニッシュまで行くが、惜しくもゴールポストに嫌われてしまう。ここに来て中盤での激しいプレスを仕掛けられるようになってしまった駒大。だがその奮闘もむなしく、ボールを奪ったあとのオフENSEに前節までの勢いが感じられない。逆に前がかりになり、浅く取られ決定的チャンスをあたえて